牛群検定通信　Ｎｏ９５

～　さあ春本番です！　～

いよいよ、待ちに待った春本番です。春は乳牛たちにとっても、とても過ごしやすく、乳量が一番多い季節です。的確な管理で、乳牛のベストパフォーマンスを引き出してください。

１　春の検定成績

（１）乳　量

都府県の個々の乳量は、夏季にもっとも下がりますが、その後に回復し、３，４，５月にピークとなります。乳量が出ると言うことは、それだけ牛に食い込ませなければならないことを意味します。フリーストール牛舎で、設計頭数以上に過剰な頭数を飼養すると、増頭分の飼料を割り増して給与しても、社会的順位の強い牛が多めに食べてしまい、結局食べれない牛が出てきます。また、ＴＭＲの場合、濃厚飼料飼料が分離してしまっても、飼料を食い込めずにやはり栄養が足りない牛が出てしまいます。

（２）気　候

最高気温が２４度以上になると、暑熱により乳量が低下してしまいます。牛群検定気象情報カウダスによると、昨年の各地域での最高気温は、沖縄を除く都府県で４月に２４度以上を記録します。暑熱対策は４月から必要となることを意味します。送風扇のほこり払いなどのメンテは３月中に済ませましょう。なお、沖縄は３月に２４度以上を記録しています。

（３）乳成分

乳脂率や蛋白質率、無脂固形分率は、春季から夏季にかけて、下降を続けます。回復するのは秋季以後となります。乳成分値は，濃厚飼料や粗飼料のそれぞれ飼料の食い込みを意味します。

（４）体細胞数

体細胞数は一般的に夏季に高くて冬季に低いと言われていますが、実際に体細胞数が低い季節は春季であり、一番低いのは４月になります。やはり、気候が良いことから、牛のストレスも少なく、健康状況が良いと考えられます。

逆に、体細胞数の改善取組を進めやすい季節でもあります。この季節に体細胞数の高い牛を出さないようにしましょう。

（５）繁殖障害による淘汰

春季は牛に良い季節ですが、繁殖障害による淘汰が多い季節です。繁殖障害は、泌乳能力には関係がないので、受胎出来なくとも長期に搾る傾向があることから、春季にまとめて淘汰するものと考えられます。ご自身の成績表をご確認ください。このような傾向はない方が望ましいものです。

平成 30 年 3 月家畜改良事業団情報分析センター